

滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会 第6回会議 会議概要

日時 令和5年6月5日(月)13時15分～15時15分
場所 滋賀県庁東館7階大会議室
出席委員 会場：若松委員、寺田委員、明吉委員、樋口委員、北村委員、東谷委員、
小南委員、加藤委員、犬井委員、浦島委員、福井委員、炭谷委員
リモート：井手委員、松浦委員、北川委員 (出席15名)
欠席委員 馬淵委員、原委員、山添委員 (欠席3名)
県出席者 福永教育長、村井教育次長、嬉野教育次長、横井高校教育課長、
小嶋魅力ある高校づくり推進室長、青木保健体育課長、中島競技力向上対策室主幹
小林私学・県立大学振興課長、白井参事、杉原参事、富永主幹、他関係職員
傍聴者等 傍聴：3名 報道：2社

1 開会

- (1) 新委員の委嘱について
事務局より説明があり、承認された。
- (2) 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会第5回会議の概要について
事務局より説明があり、原案のとおり承認された。

2 協議

- (1) 中間報告後の意見聴取結果について
 - ・3月10日の中間報告後に、高等学校および中学校関係者に向けて実施された意見聴取の結果について事務局より説明があり、意見交換が行われた。
 - ・中間報告内容の再確認を行うとともに、第6回会議は推薦制度のあり方についての協議を行うことの確認が行われた。
 - ・現行の特色選抜についての学校関係者への聴取結果を確認しながら、現状の課題の確認や、今後のあり方の方向性に向けて意見交換が行われた。
 - ・自己推薦制度と中学校推薦制度の実施方法や課題および学力検査との関係などについて、他府県の例などを参考にしながら意見交換が行われた。

○主な意見は次のとおり。

【特色選抜について】

- (ア) 現行の特色選抜に代わる、学校の特色を反映するような入試を考えたときに、枠組みをどうするかという問題があると考えている。スクールミッションやスクールポリシーと関連するような要素を持った出願要件の設定なども必要になるかと考える。(高校関係者)
- (イ) 現行の特色選抜については、これまでも課題が指摘されてきているところであり、意見聴取の結果を見ても、見直していく必要があるのではないかと考える。(高校関係者)
- (ウ) 他の中学校関係者と意見交換をしても、特色選抜の継続は難しいのではないかとという意見が代表的なものだった。特色選抜を止めて、推薦選抜に自己推薦制度も入れながらやっていくのが良いのではないかとという意見が多かった。(中学校関係者)
- (エ) 特色を打ち出す選抜を実施することは良いと思うが、高校側の準備や、受検生および中学校にとっての負担が増大するというジレンマが大きいと感じられる。(学識経験者)
- (オ) 中学校時代の活動実績などで、高等学校のスクールポリシーに合うものについてアピールしてもらえるのではないかと。また入学後も活動を継続してもらえるという点で、スクールポリ

シーに合った生徒が獲得できるのではないかと考える。(高校関係者)

- (カ) 現在のスポーツ・文化芸術推薦選抜でも、学校の魅力化や生徒の活動の活性化につながっている例もある。この学校で頑張りたい、という意欲を持った生徒が入学し、その後も頑張っていける制度を探し出せると良いのではないかと考える。(高校関係者)

【自己推薦制度と中学校推薦制度について】

- (ア) 他府県の例で、選抜を一本化した1回実施方式というものが出ているが、文部科学省の話でも、学習時間の少ない生徒が多いという話を聞いている。推薦選抜も含め、全員が学力検査を受けるという方法は、しっかり勉強をして受検に臨み、入学後も学習をしっかり頑張ってもらいたいという中学生へのアピールにもなるのではないかと考える。(高校関係者)
- (イ) 入試で、全員が学力検査を受ける必要があるという方が、学習へのモチベーションを保つという点でも良いのではないかと考える。また、入試のあり方が複雑になるよりは、1回実施方式のシンプルな形で運用していくのは、良いあり方だと感じた。(PTA関係者)
- (ウ) 1回実施方式で、全員が学力検査を受けるとするのは非常に良いと思う。そのうえで、推薦選抜の評価の仕方を工夫するなどし、多様な方法をとるとするのは非常に有効だと考える。日程についての詳細は次回という話だが、日程的にも良いのではないかと考える。(中学校関係者)
- (エ) 受検の目標が「合格」になると、入試後に「やり遂げた感」が出てしまい、学習意欲が向上しないこともあるかもしれない。高校が示しているスクールポリシーや入学後の活動に対して、目的をもって受検に臨めると良いと思う。1回実施方式で、例えば推薦の独自の検査のようなものも評価対象になるというのであれば、一つの方法だと思える。(中学校関係者)
- (オ) 自己推薦制度と中学校の推薦制度の両方が導入され、多様な生徒の思いや活動が反映され、生徒が主体的に推薦選抜に向き合えると良いと考える。(中学校関係者)
- (カ) 意見聴取結果を見ていると、高校が、自己推薦と中学校推薦について選択的導入するという方式が良いように感じる。(市町教育委員会関係者)
- (キ) 推薦選抜、一般選抜に関わらず、学力をしっかり測ることは望ましい。自己推薦制度の場合、学外での活動実績をどう評価するか、エビデンスをどうするかということが重要である。(学識経験者)
- (ク) 私学では自己推薦制度を多く導入しているが、エビデンスの確認は必要。ただ、負担は増大する。また、自己推薦と中学校推薦との線引きは重要である。(私立学校関係者)

(2) 今後の予定について

次の3点が確認された。

- ①第7回会議で日程に係る事項についての協議を行うこと。
- ②第8回会議で最終報告と新入学者選抜制度の案について協議を行うこと。
- ③令和5年12月に、最終報告とともに新入学者選抜制度を公表すること。

(3) その他

特になし。

3 閉会

- ・閉会にあたり、福永教育長から挨拶があった。
- ・次回、第7回協議会の日程については、令和5年8月に開催する方向で調整し、委員には改めて連絡することとした。

■滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会 これまでの協議の経過

会 議	開催期日・場所	協議内容等
第1回	令和4年3月17日 10:00-12:00 滋賀県庁東館7階大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱、会長・副会長の選出 ・改善協議会設置の趣旨および審議の進め方について ・検討主題および主な検討事項について
第2回	令和4年6月1日 14:00-16:00 滋賀県庁北新館5階5-A会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の解任および委嘱等 ・第1回会議での意見を踏まえた論点まとめについて ・論点ごとの協議 <ul style="list-style-type: none"> ① 推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、特色選抜の現状と課題など
調査研究	令和4年7月から8月	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県立高等学校入学者選抜に関するアンケート調査実施対象 県立高等学校および市町立中学校の校長、副校長および教頭、県立高等学校1年生
第3回	令和4年8月30日 13:30-15:30 滋賀県庁北新館5階5-A会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・専門委員の委嘱 ・アンケート調査結果概要について ・論点ごとの協議 <ul style="list-style-type: none"> ① 推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、特色選抜の現状と課題など ② 一般選抜の現状と課題など
第4回	令和4年11月17日 10:00-12:00 滋賀県庁北新館5階5-B会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・論点ごとの協議 <ul style="list-style-type: none"> ③ 入試日程および入試業務など ・中間報告（素案）について
第5回	令和5年1月26日 15:15-17:15 大津合同庁舎7階7-D会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・中間まとめ 中間報告（案）について
中間報告	令和5年3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告公表
意見聴取	令和5年3月10日～24日	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告に関する意見聴取 対象 県立高等学校校長、副校長、教頭、入学者選抜主担当 公立中学校校長、副校長、教頭、進路指導主担当
第6回	令和5年6月5日 13:15-15:15 滋賀県庁東館7階大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・新委員委嘱 ・中間報告に関する意見聴取結果を受けての協議（特色選抜・推薦選抜等に係る事項）

■滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会 今後の協議予定

会 議	開催期日・場所	協議内容等
第7回	令和5年8月下旬 予定	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告に関する意見聴取結果を受けての協議（選抜日程に係る事項）
第8回	令和5年10月下旬 予定	<ul style="list-style-type: none"> ・最終報告（案）について ・新入学者選抜制度(案)について
最終報告 新制度	令和5年12月	公表

新入学者選抜制度の方向性 ～主体的な進路選択の推進～

1 スクール・ポリシーを踏まえ、子どもの学びに応じた入学者選抜の実施

- 教育目標、育てたい生徒像、入学者受入方針の明確化
 - ・「目指す教育」や「求める生徒像」の周知
 - ・出願要件の明確化(校内外での活動実績、評定 など)
 - ・選抜基準の明確化(活動実績、実技検査、調査書の配点や比率 など)
- 各校の特色に応じた選抜の実施
 - ・面接、プレゼン、ディスカッション、小論文、作文、口頭試問、実技など
- 中学生が自己をアピールできる自己推薦制度の導入
- 多様な尺度での評価
 - ・学力検査では測ることができない資質・能力を評価する機会の保障

2 受検機会の保障

- 複数回の受検機会
- 中学生が自己をアピールできる自己推薦制度の導入
- 特別な配慮を必要とする生徒への入試における対応のさらなる充実
- 出願変更や二次選抜の在り方

3 負担の軽減

- Web出願導入による出願業務の負担軽減
- 学力検査内容の精選や採点補助システム導入による採点業務の負担軽減